

2024年度 事業報告および活動計算書

2024年4月1日～2025年3月31日

特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー振興会議

2024年度事業報告書

事業内容

I. 会務関連

1. 会員総会・理事会 2024年6月20日(木)

決議事項: 第1号議案 2023年度事業報告・活動計算書に関する件
第2号議案 将来事業特別積立金について
第3号議案 2024年度事業計画・活動予算書に関する件
第4号議案 役員選任に関する件

2. 記念講演会 2024年6月20日(木)

オンサイト開催 参加者: 57名(発表者・事務局含む、以下同様)
「バイオインダストリーとイノベーション」
サラヤ株式会社 代表取締役社長 更家 悠介氏
講演会終了後、懇親会 参加者: 51名

3. 理事会 2025年1月31日(金)

決議事項: 第1号議案 40周年記念事業
意見交換
1) Bioeconomy Hub Japan(BH Japan) 2025状況ご報告
2) 2024年事業予実見込
3) 入会状況

4. 新規会員勧誘活動

本年度、正会員9社、準会員1名の退会があったが、新規入会勧誘活動を積極的に行った結果、新たに正会員11社の入会があり、増口も合わせて全体で4口の増加となった。事業拡大のため、今後も継続的に勧誘活動を行う。

- ◆退会: 正会員9社(11口)、個人会員 0名、準会員 1名
- ◆入会: 正会員11社(13口)、増口1社(2口)、個人会員 1名、準会員 0名

5. 活動報告会

近畿バイオの会員を対象に、活動報告会を開催した。今年度は、オンラインで2回の開催となった。新規入会会員の事業紹介を行い、終了後にはオンライン交流会も実施した。会員相互の理解を深める良い機会となり、いくつかの商談に発展した。

- ◆2024年 7月29日(月) 参加者: 23名
新規入会会員事業紹介 株式会社RDサポート
株式会社ワールドインテック
EY新日本有限責任監査法人(EY Japan)
ダイキン工業株式会社

- ◆2025年 3月11日(火) 参加者: 32名
新規入会会員事業紹介 株式会社村田製作所

Ⅱ．業務関連

1. バイオ関連技術産業化支援事業

(1) バイオコミュニティ関西(BiocK)

BiocKは、内閣府認定のグローバルバイオコミュニティとして、関西を拠点としたバイオ分野におけるエコシステムの形成を目指し、1)イノベーションの促進、2)ネットワーク形成促進、3)国内外への情報発信に取り組んでいる。事務局は、近畿バイオと公益財団法人都市活力研究所が担当。

今年度は、以下の取組みを行った。

1)委員会

◆第7回委員会

2024年 7月4日(木)

出席36名(BiocK役員5名、委員9名、代理22名)、随行者12名、欠席委員6名

アドバイザー・分科会・認定BC:17名、オブザーバー7名、事務局6名

1. 開会挨拶:澤田委員長

2. 「バイオエコノミー戦略について」

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官 川上大輔氏

3. 新委員・交代委員紹介:交代委員8名

4. 新分科会紹介:KODOBOKU技術を活用した森林環境分科会、トイレ空間での新たな価値提案分科会

5. Bioeconomy Hub Japan 2024 開催報告

6. Bioeconomy Hub Japan 2025 状況報告

7. 2023年度活動報告及び決算

8. 2024年度活動計画及び予算

9. 「プラネタリーヘルス:コンセプトと最近の動向」

長崎大学 プラネタリーヘルス学環 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授 渡辺知保氏

10. 質疑応答(モデレーター:坂田副委員長兼統括コーディネーター)

11. 閉会挨拶:諸富副委員長

◆第8回委員会

2025年2月19日(水)

出席80名(BiocK役員:4名 委員:9名 代理:18名、随行者:13名、欠席委員11名)

アドバイザー・分科会・認定BC:24名 オブザーバー:4名 事務局:8名

1. 開会挨拶(澤田委員長)

2. 「バイオ分野でのスタートアップ創出の加速に向けて」(ビデオ)

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官 川上大輔氏

3. 新委員・交代委員紹介:交代委員1名

4. Bioeconomy Hub Japan 2025状況報告

5. グローバル・スタートアップ・アクセラレーションプログラムへの提案(BiocKスタートアップ分科会 三井住友銀行 前川卓郎氏)

6. 意見交換(坂田副委員長兼統括コーディネーター)

7. 閉会挨拶(諸富副委員長)

◆2025年3月末現在 役員5名、委員37名、アドバイザー35名

2)イノベーションの促進

◆2024年度新規分科会(2件)、合計31件(2025年3月末現在)

お茶とフレイル研究分科会

ヘルスエクイティDX分科会

◆第4回分科会会議

2024年8月29日(木)

出席54名(講師1名、分科会30名、オブザーバー12名、BiocK11名)

1. 開会挨拶(澤田委員長)

2. 新分科会活動紹介(第3回分科会会議以降の発足)

3. 国際シンポジウムの情報共有と参加依頼

4. 講演「オープンイノベーションの成功に向けて」

株式会社ちとせ研究所 代表取締役 最高経営責任者 藤田 朋宏氏

質疑応答

5. アンケート結果に基づく意見交換

モデレーター:坂田副委員長兼統括コーディネーター

6. 事務局連絡

7. 閉会挨拶(諸富副委員長)

3)ネットワーク形成促進

◆連携機関登録

2023年度新規登録 7件

連携機関登録 計108件(2025年3月末現在)

◆第3回バイオコミュニティ連携会議

2024年11月1日(金) 札幌

◆京阪神連携会議(大阪府、京都市、神戸市、BiocK)

2024年 5月16日(木) 大阪開催 国際イベント打合せ、その他情報交換

2024年 7月12日(金) 神戸開催 国際イベント打合せ、その他情報交換

2024年12月18日(水) 京都開催 国際イベント打合せ、スタートアップ支援活動について、その他情報交換

2025年2月12日(水) 大阪開催 国際イベント打合せ、スタートアップ支援活動について、その他情報交換

2025年3月17日(月) 神戸開催 国際イベント打合せ、スタートアップ支援活動について、その他情報交換

◆日英ヘルスケア・シンポジウム

2025年 2月25日(火) 主催:英国大使館、英国総領事館 ビジネス・通商部

参加者:オンサイト20(関係者除く)、オンライン参加:84

「Ambitions in Regenerative Medicine」

谷村 忠幸氏(会場参加) クオリプス株式会社 副社長

「Accelerate the global delivery of life-changing cell and gene therapies from the UK」

Dr. Lee Dunham(オンライン参加)

Director of Business Development, Cell & Gene Therapy Catapult
「R&D/clinical development of CGT Therapeutics」
Dr. William Lindsay, (オンライン参加)
Life Science Sector Specialist, Department for Business and Trade
「Cell and Gene Therapy – Manufacturing in UK」
Dr. Jonathan Haith, (オンライン参加)
Head of UK Site at FUJIFILM Diosynth Biotechnologies

【パネルディスカッション】

モデレーター: 坂田 恒昭氏

パネリスト: 谷村 忠幸氏／Dr. Lee Dunham／Dr. William Lindsay
／Dr. Jonathan Haith

4) 国内外への情報発信

◆ ホームページからの情報発信

BiocKホームページを活用し、BiocKの活動状況やバイオ関連イベント情報などを発信した。

◆ 口頭発表および投稿

外部のセミナー等からの依頼に応じ、BiocKの活動紹介を実施した。また、専門雑誌等への投稿も積極的に行った。JBA B & I 2024年Vol82 No.4に掲載「バイオコミュニティ関西(BiocK) ～集積から連携へ～」、関西医薬品協会会報 2024年度2月・第901号に掲載「バイオコミュニティ関西(現状・今後の取り組み)など。

◆ 国際イベント企画

2025年大阪・関西万博の開催に合わせ、国際シンポジウムの開催を企画。名称を「Bioeconomy Hub Japan」とし、プレイベントを実施した。

◆ プレイベント: Bioeconomy Hub Japan 2024実施

2024年 4月19日(金) 主催: Bioeconomy Hub Japan 組織委員会

後 援: 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

参加者: 130名(招待66名、有料44名+登壇者11人+事務局9人)

プログラムディレクター: BiocK副委員長兼統括コーディネーター 坂田 恒昭氏

テクニカルディレクター: 神戸大学 近藤 昭彦氏、京都大学 小川 順氏

テーマ: プラネタリーヘルス ～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか～

基調講演

1. グローバルな疾病構造の変化と差し迫る地球環境問題 京都大学名誉教授 井村 裕夫氏

2. 人新世に目指すプラネタリーヘルス 長崎大学 プラネタリーヘルス学環熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授 春日 文子氏

スピーカーからの話題提供講演

環境・エネルギー

1. 脱炭素を目指すエネルギーシステム 環境・エネルギー 公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)理事長 山地 憲治氏

2. 低炭素社会実現に向けたバイオものづくりへの挑戦 環境・エネルギー 株式会社カネカ 常務執行役員R&B本部長 上田 正博氏

持続的食料システム

3. 食産業における新たな課題 東京大学 名誉教授 東京農業大学 客員教授 阿部 啓子氏
4. 食のサステナビリティとWell-being 味の素株式会社 執行役ビジネスモデル変革担当 グリーン事業推進部長 柏原 正樹氏

グローバルヘルス

5. One Healthアプローチの重要性: 感染症の時代を生きるために 国立感染症研究所 獣医科学部 部長 前田 健氏
6. ライフサイエンス研究の動向と展望(主にモダリティの観点から) 国立研究開発法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー 辻 真博氏

パネルディスカッション

モデレーター : 坂田 恒昭氏、近藤 昭彦氏、小川 順氏

パネリスト 山地 憲治氏、上田 正博氏、阿部 啓子氏、柏原 正樹氏、前田 健氏、辻 真博氏

Bioeconomy Hub Japan 2025にむけての振り返り:

1. プラネタリーヘルスの議論をバイオエコシステムにつなげたい
2. プラネタリーヘルスの議論を軸に、企業、アカデミア、分科会をつないでいきたい
3. メッセージ性の強い言葉で日本および世界に伝え、企業の今後の事業戦略や研究開発に活かしてもらいたい
4. 全体を俯瞰した議論にする必要がある
5. 技術だけでなく、経済や人文の視点、途上国の視点も重要
6. プラネタリーヘルスとバイオエコノミーを関連付けた議論では世界でもあまりないため、十分な事前準備が必要

◆Bioeconomy Hub Japan 2025準備

Bioeconomy Hub Japan 2025(2025年4月17及び18日開催)を企画し、実施に向けて準備を行った。

(2) 産学個別マッチング

大学の技術シーズと企業のニーズとのマッチングを目的として、近畿圏の大学の産学連携部門とのネットワークを活用し、技術シーズの発掘を行うとともに、企業への紹介を行った。また、新しい技術を有する中小・ベンチャー企業を発掘し、ニーズを有する企業へのマッチングに繋げ、事業化を支援した。

2. バイオベンチャー支援事業

(1) 関西バイオビジネスマッチング2024

バイオ分野で事業展開している企業等を対象に、業務提携、販路開拓、アライアンス締結等の推進を目的として、商談会をオンラインにて開催した。

- ◆アズワン株式会社及び学校法人佐藤学園の協賛
- ◆共催・協力団体を通して広報活動を強化
- ◆昨年に引き続きEventHubシステムを使用
- ◆10月1日募集開始、1月・2月商談実施
- ◆出展者向け説明会開催(12月10日、オンライン)
- ◆ピッチ開催(1月9日、オンライン)
- ◆マッチングサポート実施(35社からの依頼に対応)
- ◆実績

ブース数:121(企業:83、アカデミア:29、その他:9)
参加者数:215名(企業:149、アカデミア:47、その他:19)
ピッチ :46社登壇
商談数 :157件
(昨年度の実績:121(企業:83、アカデミア:30、その他:8)、参加者数:225名、
商談数:320件)

(2) 2024年度 ライフサイエンス海外ビジネス展開等支援事業(大阪府)

2019年度から継続して大阪府より本事業を受託している。有望な研究・技術シーズを有する府内ライフサイエンス関連産業中小・ベンチャー企業等のグローバルなビジネス展開を支援するため、海外企業等とのマッチング・アライアンスの促進を図ることを目的とし、本事業を実施した。

(2)ー1 海外企業とのライフサイエンス分野のパートナーリング機会の提供

府及び国内外の関係機関と連携して、欧州の企業・ライフサイエンス分野の海外クラスターなどと、大阪を中心とする国内企業とのマッチング・アライアンスの促進等を目的に、日欧パートナーリング・カンファレンスを企画・実施した。

オンライン開催とオンサイト開催の両方で実施し、個別のone to one meetingの他、オンサイト会場内でのランチョンピッチ、ポスター展示やポスター発表を実施した。参加者数、商談件数等を以下に記載した。

「日欧バイオテック&ファーマ パートナリングカンファレンス2024」の開催

実施内容

開催日 :オンライン:2024年 9月24日(火)~27日(金)

オンサイト:2024年10月7日(月) 10:00~19:00

開催場所:オンライン:商談専用システム(b2match)

オンサイト:ホテル阪急インターナショナル

開催内容:オンライン:開催期間内で参加者が自由に面談時間を設定

オンサイト:個別商談会(25分枠)

対象分野:創薬、創薬支援、再生医療、デジタルセラピューティクス(予防、診断、治療に用いられるデジタル技術)

参加実績:事業全体 計159社・団体(日71、欧:88)

大阪会場 :109社・団体(日:58企業、欧:51企業)

オンライン : 80社・団体(日:31企業、欧:49企業)

* 昨年度:事業全体 計125社・団体(日45、欧:80)

大阪会場 :92社・団体(日:37企業、欧:55企業)

オンライン :63社・団体(日:23企業、欧:40企業)

商談件数:合計302件 大阪会場:229件、オンライン: 73件

* 昨年度 合計218件 大阪会場:136件/オンライン:82件

参加国数 :22か国

* 昨年度19か国

(2)ー2 産学官連携情報交流セミナーの企画・実施

府内ライフサイエンス関連の中小企業等のニーズを踏まえたビジネス支援のための情報交流セミナーを企画・実施した。実施にあたっては、中小・ベンチャー企業のニーズを把握するとともに「PMK イニシアティブ」と連携して企画検討業務を実施した。本セミナーは、すべてオンライン(zoom)での開催とし、近畿バイオでは、案内チラシの作成、それを用いての広報活動、HPでの参加受付、視聴者の管理、zoomウェビナーでの講演実施、セミナーで使用する資料の作成、アンケートの準備と集計等を行った。アンケート集計結果からは、いずれの回も満足度は高い、との回答が得られた。

◆第1回 産学官連携情報交流セミナー

2024年 8月2日(金) 参加者:67名 (オンラインのみ)

「クオリプスの概要及び今後の戦略について」

クオリプス株式会社 代表取締役社長 最高経営責任者 草薙 尊之氏

「ChatGPT最速導入。DXが当たり前の住友ファーマ」

住友ファーマ株式会社 データデザイン室 兼 IT&デジタル革新推進部 主席部員
菅原 秀和氏

◆第2回 産学官連携情報交流セミナー

2025年1月15日(水) 参加者:140名 (オンラインのみ)

「腸内環境の見える化がもたらす新しい健康未来像と創薬・ヘルス産業への期待」

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 医薬基盤研究所 副所長

ヘルス・メディカル微生物研究センター センター長(併) 國澤 純氏

「再生医療を取り巻くわが国の法整備と開発現場の現状と課題について」

株式会社サイトファクト 代表取締役社長CEO 川真田 伸氏

(2)ー3 海外展開サポートの企画・実施

府内ライフサイエンス関連の中小企業等の海外展開を促進するとともに、(2)日欧パートナーリング・カンファレンスの参加者を増加させ、その効果をより向上させるため、海外展開にあたり障壁となりうる言語・文化・商習慣等の違いや、海外企業に対して魅力的なプレゼンテーションを行うために必要な知識や技術を習得することを目的としてセミナーを実施した。

◆第1回 海外展開サポートセミナー(ハイブリッド開催)

2024年 8月28日(水) 参加者:57名(うち会場参加:20名)

「創薬イノベーションの未来を切り拓く:長期的なグローバルパートナーシップの価値」

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 創薬研究アライアンス部 部長／

大阪大学共創機構 特任教授 前田 朋子氏

「ケンブリッジのエコシステム発展の歴史と弊社の果たしてきた役割」

ケンブリッジコンサルタンツ株式会社

メディカルテクノロジー事業部 事業開発部長 松井 拓也氏

◆第2回 海外展開サポートセミナー(ハイブリッド開催)

2024年 9月12日(木) 参加者:51名(うち会場参加:11名)

「海外とのコミュニケーション、ビジネスの仕方を学ぶセミナー

—英語が下手でも、プレゼンが下手でも、モノさえ良ければ怖くない！

肩肘張らずに、自然体で海外と付き合おうー」

JPRO INCUBATION OFFICE 代表 上谷 和司氏

(3) BioJapan2024展支援

2024年10月9日(水)～11日(金)にパシフィコ横浜で開催されたBioJapan2024にて、一定区画のブースを確保し、近畿を中心に活動するバイオ関連の中小ベンチャー企業から出展を募り、10の共同出展を実施した。

＜出展企業＞

RDサポート株式会社、株式会社MORESCO、学校法人佐藤学園OBMリサーチセンター、神戸天然物化学株式会社、株式会社シーテック、H.U.セルズ株式会社、片山化学株式会社、KookminBio Co., Ltd.、株式会社テクノプロ、サンヨーファイン株式会社((株)大阪ソーダ)

(4) バイオベンチャーデータベース

バイオインダストリー協会(JBA)と共同で「バイオベンチャーデータベース」を運用している。掲載数の拡大に向けた方策についてJBAと協議した結果、各ローカルコミュニティや神戸医療産業都市、関西イノベーションイニシアティブ(KSII)の協力を得て、各団体の関連ベンチャーへ

登録の依頼を送付することとした。

全掲載件数 2025年3月末現在:日本語サイト 347件、英語サイト 217件
2024年3月末現在:日本語サイト 251件、英語サイト 157件

(5)「関西のユニークな 研究シーズ大集合！ ～ペプチド創薬編～」 参加者:30名(オンサイトのみ)

2025年2月14日(水)、大阪府主催、理化学研究所共催のもと、Nakanoshima Qrossで「関西のユニークな 研究シーズ大集合！ ～ペプチド創薬編～」を開催した。本イベントは、ペプチド創薬に関する研究者に、研究発表内容に関する企業との意見交換や交流を通じて、共同研究のきっかけを提供することを目的として実施した。大阪府が主催し、近畿バイオは運営のうち、参加する事業会社、スタートアップ等の募集、イベントの実施、アンケートの取りまとめ等を担当した。

発表研究者

- 1) 鏡像型タンパク質を利用した医薬シーズの探索
京都薬科大学 薬学部 教授 大石 真也氏
- 2) 動的構造ベースのペプチドデザイン
医薬基盤・健康・栄養研究所 チームリーダー 李 秀栄氏
- 3) NPR/ GCase 受容体を標的とした新規薬剤開発のための基盤構築
京都大学大学院 薬学研究科 准教授 小川 治夫氏
- 4) 投げ縄ペプチド合成系の応用利用に向けて
理化学研究所生命機能科学研究センター チームリーダー 田上 俊輔氏
- 5) ポスト抗体医薬:抗体様分子標的ペプチド” Helibody
大阪公立大学 研究推進機構 助教 道上 雅孝氏
- 6) ペプチド性創薬シーズの探索 大阪大学 産業科学研究所 助教 高田 悠里氏

3. 研究会

(1) 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会

機能性食品の開発・商品化を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、食産業の発展に貢献することを目的として2006年8月に設立した本研究会は、19年目を迎えて、延べ78回の研究会を開催した。今後も継続して機能性食品が「予防医学・代替医療」として有効に活かされていくよう、科学的根拠に基づいた機能性・有効性・安全性等を議論し、健康食品の信頼性を高めていく交流の場として継続実施した。

◆第1回研究会:2024年6月18日(火) 参加者:50名(オンサイトのみ)

「地域高齢住民のフレイルにおける栄養素・食品摂取量と腸内細菌に関する横断的研究～2025年世界長寿サミットに向けて～」

京都府立医科大学大学院 医学研究科 生体免疫栄養学講座 教授 内藤 裕二氏

「筋萎縮に有効な機能性宇宙食の開発」

徳島大学 大学院医歯薬学研究部 生体栄養学分野 教授／

徳島大学 宇宙栄養研究センター センター長 二川 健氏

トークセッション

◆第2回研究会:2024年 9月3日(火) 参加者:95名(公開・オンラインのみ)

「生活より:動脈硬化の新知見とケルセチン配糖体による血管新生

～心外膜脂肪と毛細血管Vasa Vasorum～」

徳島大学大学院医歯薬学研究部 循環器内科学分野 教授 佐田 政隆氏

「毛細より:毛細血管の維持がもたらす健康寿命の延伸」

大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉 伸幸氏

◆第3回研究会:2024年12月3日(火) 参加者:23名(オンラインのみ)
「認知症基本法と最近の施策の動向:生活習慣病の視点から」
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター もの忘れセンター 客員研究員
佐治 直樹子氏
「腸内環境を守るPaneth細胞・ α ディフェンシンの健康と疾患における役割」
北海道大学大学院 先端生命科学研究院 教授 中村 公則氏

◆第4回研究会:2025年3月4日(火) 参加者:17名(オンラインのみ)
「骨格筋Microphysiological Systems(MPS)を活用した機能性食品開発」
名古屋大学大学院 工学研究科 生命分子工学専攻 准教授 清水 一憲氏
「認知症の回復を目指した和漢薬研究」
富山大学 和漢医薬学総合研究所 神経機能学領域 教授・副所長 東田 千尋氏

また、神戸薬科大学と共催で、第4回「関西くすりと健康食品フォーラム」を開催した。今年度は、株式会社ファーマフーズ 総合研究所 開発部 部長 山下 裕輔氏にご登壇いただいた。同様に星薬科大学の「日本くすりと食品機能フォーラム」に企業からの講師を依頼した。

(2) バイオの次世代を考える会

本会は、アカデミア・産業界から専門分野の最新の研究・動向を紹介し、議論することで、関西を中心にエコシステムを根付かせ、バイオエコノミー推進に貢献することを目的に発足しました。そのためには、産官学のバイオニューリーダーの密な協力が不可欠と考え、若手のネットワーク形成とオープンイノベーションに繋がる各ステークホルダーの交流活動を目的として再スタート致しました。

◆2024年6月25日(火) キックオフ会議 (オンライン会議)
メンバーの自己紹介の後、バイオの次世代を考える会の企画内容を説明し、議論。次回セミナーの日程の相談等の事務連絡。

◆2024年9月25日(水) 会員限定セミナー (ハイブリッド) 参加者:25名
「オープニングリマックス」
特定非営利活動法人 近畿バイオインダストリー振興会議 理事長 坂田 恒昭氏
「スタートアップの財務戦略」
みやこキャピタル株式会社 取締役 パートナー 三澤 宏之氏
「スタートアップ企業とコンプライアンス」
弁護士法人北浜法律事務所 パートナー弁護士 中森 亘氏
「わが国のバイオ知財の未来を形作る」
高島国際特許事務所弁理士 神戸大学・同志社大学客員教授 駒谷 剛志氏

◆2024年11月5日(火) 会員限定セミナー ～オープンイノベーションの成功事例を学ぶ～
(ハイブリッド) 参加者:36名

『新規抗CCR8抗体S-531011の創製から学ぶ産学連携の意義』

塩野義製薬株式会社 創薬開発研究所 がんトランスレーショナル・リサーチ 領域長 柳 楽 庸史氏

『異分野への挑戦ーサプリメント原料・発酵ケトン体D-BHBの発酵生産ー』

大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所 フェロー 坪田 潤氏

『食による健康長寿社会の実現に向けた取り組み～セルフケアフード協議会の近況～』

株式会社島津製作所東京支社 産学官・プロジェクト推進室 堅田 一哉氏
『花事業を研究開発の力で育てる ～ベンチャー企業や官学との連携～』
元サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社 田中 良和氏
パネルディスカッション

◆2025年 2月3日(月) 会員限定会議

コアメンバーによる、今後の課題について議論を実施。スタートアップ・産学連携を進め、それをグローバルに展開していくためのネットワークをどのように作っていくか、また、産学間の連携のあり方を課題とし、まずは日本におけるボトルネックについて議論を行った。コアメンバーが感じる、海外における魅力的な環境作りの進め方や、それを日本に当てはめた場合の問題点を提示し産・官・学で共有することで問題意識の統一を図り、今後の議論を進めていく上での土台作りを行った。

(3) 毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム

毛細血管画像を健康指標として確立すること、およびその社会実装を行うことを目的として、2021年8月にコンソーシアムを設立し、活動している。毛細血管画像は、生活習慣病などの特定の疾患や、老化、疲労、ストレスなどの健康状態、美容などに関連しており、新しい健康指標として確立することができれば、健康寿命の延伸に貢献できる可能性がある。

今年度は以下のオープンセミナーおよび会員限定セミナーを企画し、実施した。

◆2024年7月23日(火) 会員総会・第1回研究会

ハイブリッド開催 参加者:25名(うち、オンサイト:14名)

会員総会

「最新の毛細血管研究動向」

大阪大学微生物病研究所 教授 高倉 伸幸氏

「食と健康と毛細血管の関わり」

摂南大学 農学部 岸本 良美氏

「毛細血管指標のPHR連携」

あっと株式会社 代表取締役 武野 團氏

◆2024年9月3日(火) 第2回研究会 参加者:95名(公開・オンラインのみ)

生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会と合同セミナーを開催した。

「生活より:動脈硬化の新知見とケルセチン配糖体による血管新生

～心外膜脂肪と毛細血管Vasa Vasorum～」

徳島大学大学院医歯薬学研究部 循環器内科学分野 教授 佐田 政隆氏

「毛細より:毛細血管の維持がもたらす健康寿命の延伸」

大阪大学 微生物病研究所 情報伝達分野 教授 高倉 伸幸氏

毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアムについて(会員募集)

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局長 国松 武史

◆2024年12月20日(金) 第3回研究会 参加者:13名

「皮膚老化と毛細血管とのかかわり」

資生堂株式会社 みらい開発研究所 シーズ開発センター

センター長(Vice President) 加治屋 健太郎氏

パネルディスカッション:

テーマ:毛細血管ラボ社会実装コンソーシアムの発展に向けて

司会進行:NPO法人「みんなの漢方R」 理事長 増田 美加氏

パネリスト:あっと株式会社 藤井 千春氏、武野 團氏

アドバイザー(オブザーバー):高倉 伸幸氏

- ◆2025年 2月17日(月) 第4回研究会 参加者:16名
「健康長寿を支える血管・リンパ管機能の維持とその実現に向けて」
東京科学大学 大学院 医歯学総合研究科 病態生化学分野 教授 渡部 徹郎氏
「毛細血管へのアプローチを目指した健康食品の研究開発について」
全薬販売株式会社 パワーライン営業部 学術開発課 課長 桜庭 大樹氏

4. セミナー・講演会

(1) 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

ライフサイエンス分野で最先端の研究をリードしている関西の先生方にご講演いただくセミナーを公益財団法人都市活力研究所と共同でオンライン開催した。

モデレーター:大阪大学大学院医学研究科 教授 竹田 潔氏
大阪大学共創機構 特任教授 坂田 恒昭氏

- ◆第40回:2024年 7月 2日(火) 参加者:125名
「データ駆動的な患者層別化と創薬標的探索に向けたAI開発」
医薬基盤・健康・栄養研究所 AI健康・医薬研究センター センター長代行・バイオリンフォマティクスプロジェクト プロジェクトリーダー
徳島大学 先端酵素学研究所 特任教授(併任)
大阪大学 蛋白質研究所 特任教授(併任) 夏目 やよい氏
「生体イメージングによる難治性疾患の病態理解と創薬への応用」
神戸大学 大学院医学研究科 未来医学講座 免疫学分野 教授 菊田 順一氏

- ◆第41回:2024年 9月 4日(水) 参加者:73名
「生物発光が持つ多様な応用展開 -生理活性物質の探索から農薬検出まで-」
産業技術総合研究所 生命工学領域 主席研究員 近江谷 克裕氏
「ゲノム編集スクリーニングを用いたがんの新しい病態理解と治療応用」
大阪大学大学院医学系研究科 生命機能研究科(兼任)がん病理学 教授 井上 大地氏

- ◆第42回:2024年12月17日(火) 参加者:106名
「代謝経路を測定してバイオものづくりに活用する」
大阪大学大学院 情報科学研究科 教授 松田 史生氏
「マルチオミクス解析による小児がんの病態理解と新規克服法の開発」
大阪公立大学 大学院 医学研究科 ゲノム免疫学 教授
東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター メタゲノム医学分野 特任教授 植松 智氏

- ◆第43回:2025年 3月 3日(月) 参加者:144名
「オルガノイドを用いた肝疾患治療」
大阪大学 大学院 医学系研究科 ヒューマン・メタバース疾患研究拠点 教授・副拠点長
東京科学大学 総合研究院 ヒト生物学研究ユニット 教授
横浜市立大学 特別教授/コミュニケーション・デザイン・センター長
シンシナティ小児病院 幹細胞・オルガノイド医療研究センター 副センター長/准教授 武部 貴則氏
「腸内細菌と宿主の糖代謝連関」
京都大学 大学院 生命科学研究科 教授 木村 郁夫氏

(2) 会場参加型トークセミナー

宮田満氏のコーディネートによる会場参加型トークセミナーを開催した。本年度はシスメック

スCTO 吉田 智一氏をお招きし、講演とトークセッションをオンサイトで行った。

- ◆2024年 7月25日(木) 参加者:38名
「21世紀前半における、ヘルスケア・医薬産業の挑戦」
株式会社宮田総研 代表取締役社長 宮田 満氏
「シスメックス長期経営戦略 VA33;
ヘルスケアジャーニーの実現に向けた取組みについて」
シスメックス株式会社 取締役常務執行役員 CTO 吉田 智一氏
フリートーク

5. 海外交流

(1) 新春トークセミナー・新春国際交流会

近畿バイオ会員のみ参加可能(オンサイトのみ)で新春トークセミナーを開催した。

- ◆2025年 1月31(金) 参加者:69名(オンサイトのみ)
「バイオテクノロジーの最新潮流2024/2025」
株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役
／株式会社宮田総研 代表取締役 宮田 満氏
【海外機関ご紹介】
10団体
アイルランド政府産業開発庁／イスラエル大使館／カナダ ケベック州政府在
日事務所／在大阪オーストラリア総領事館／在大阪オランダ王国総領事館／
在大阪・神戸アメリカ総領事館／アメリカ ノースカロライナ州経済開発機構／
アメリカ ペンシルバニア州地域振興・経済開発局／米国メリーランド州政府日
本投資事務所／英国総領事館(動画配信)

6. その他

(1) 西宮市植物生産研究センター企画業務(西宮市より受託)

西宮市植物生産研究センターの企画業務を支援するとともに、同センターで開発された新しい植物の商標登録出願に伴う会計事務等を行った。

(2) ConnectBio Kobe Rising Stars実施

2025年2月4日(火)に、日本最大級のバイオメディカルクラスター『神戸医療産業都市』に拠点を置く企業4社が主催し、学生(大学生、大学院生、ポストドクター)28名が参加し、主催企業の紹介・企業見学、学生の研究紹介を通し、お互いが交流するイベントを開催した。近畿バイオは、参加する大学生、大学院生、ポストドクターの募集・管理を担当した。

(3) メルマガ配信

他団体のバイオ関連の各種イベント情報を、関係各位にメールマガジンとして配信した。
定期配信(2回/月)
臨時配信19回